

HAMON

特集 クリスマスにプレゼントしたい本



「ロンドン・アンティーク物語〔究極の贅沢版〕」

●笠松見好さん

ロンドンのアンティークやジャンク品の魅力、買付けの様子などを紹介。手描きイラストが素晴らしく、アンティーク・かわいいもの・イギリスが好きな方に贈りたい1冊。見ているだけで目と心が潤います。初めて見た時はため息ばかりこぼれました。古いレースや食器、キルトやテディベアなど、昔の手仕事の美しさに感動しつつ、その当時の話を読んで、自分も体験しているような気分になります。もりのみやキューズモールのまちライブラリーにあるのでぜひ探して手にしてください！



「クリスマスにはおくりもの」五味太郎

●長谷川紘子さん

欲しかったプレゼントから始まり、皆でワイワイ楽しい日。クリスマスはそれだけの日でしょうか？この本の女の子はサンタさんへのお礼のプレゼントを自分の靴下にしのばせてベッドに入ります。サンタさんと女の子は翌朝プレゼント交換を楽しみ、2人はほっこり嬉しい朝。相手の心を考える温かさを考えさせられる一冊です。

かじランのちょこっとウィーキング講座

ウォーキングを始めたあなたにちょこっとアドバイス

「足の神様をご存じですか」

阪急電車宝塚線服部天神駅すぐ近くにある服部天神宮。菅原道真公が足の病からご回復され、太宰府まで無事到着されたことにちなんで足の神様なのです。毎年、秋には足祭りが開催されます。日本古来から伝わる知恵や最新のテクノロジーまで、健康、健脚、美脚に関する体験や催しがあり、足守りなどの縁起物や、足みくじが登場します。ぜひ、お参りください。

健康管理士 梶野猛





特集 クリスマスにプレゼントしたい本



「100にんのサンタクロース」 谷口智則 波々伯部恵子さん

はじめて表紙を見た時、たくさんのサンタがこちらを見ていてほっこりする絵本です。プレゼントをもらった後、「サンタたちが協力して届けてくれたんだね」と話が盛り上がり、クリスマスの時間がもっと楽しくなる一冊です

「赤毛のアン」 「アン青春」他シリーズ ルーシー・モンゴメリ 荒井伯子さん

この季節になると、自分が読み返したくなるので贈り物にもええんとちがうか? と思ひまして。年を重ねていくと、アン成長物語というより、周囲の登場人物、特に大人の再生物語のような気がしてきました。物語にでてくる、暖炉周りのあたたかなごちそうやお菓子にほっこりできるのもいいなとおもいます。



『かけだしたイス』 サトシン、ドーリー 濱町美三子さん

...ある日、ふと「いつまでも座られ続けられる必要はないんじゃないか」ときづいたイスが一步踏み出すストーリー。競走馬との世紀の大レースは、子ども向けの絵本だということのを忘れてしまうほどの手に汗握る展開。大人が夢中



『Separate Ways 君のいる場所』 作・絵 : ジミー〈幾米〉 (台湾)

たとえば自分の子供にこの本を贈るとして。切ない恋愛を描いた絵本だけれど、それも有りだと思ふ。恋愛を通じて、季節が巡るように人生も巡るんだよ、と淡々と語りかけるストーリー。日々はいつでも美しいとは限らない、心地よいとは限らない、けれどつまらないとも限らない。誰かと会えること。会えないこと。会いたいこと。人を思い揺れる心。誰もが踏みしめていく心の揺らぎが愛おしい。この絵本を子供と読み合わせしてみようか。大切な人がどんな顔でこの絵本を感じるのだろうか。



～彼には右に行く癖があり、彼女には左に行く癖がある～
～めぐり会うはずのない二人～

物語とともに、作者が描く台湾の街並みや風景の画(え)も胸に沁みる。心に沁みる温かい絵本。よろしければどうぞ。ゆったりと読めて、沁みる一冊です。
(神洲橋)



「写真集365日世界一周絶景の旅」

まりもも

世界一周、誰もが憧れるはず。

しかも、絶景となれば余計に観たくなる。

その欲望を満たしてくれるのが、写真集 「365日世界一周絶景の旅」

日本一周さえ経験の無い私だか、この本を眺めると世界って色んな風景に溢れていると改めて実感する。たくさんの旅人の協力で集めたという絶景が365枚。年明けを祝う風景で始まり、サハラ砂漠やウユニ塩湖、勿論日本が誇る富士山も。

1月1日から順番にページをめくっていくのもいいが、誕生日など記念日から選んでみるのもよし、一人空想に浸ってみたり、友達や家族と一緒に眺めるのもまた楽しいだろう。眺めているうちに次第にいつかこんな素敵な場所へ行ってみたいと夢が膨らむ。

そんな気持ちにさせてくれる1冊である。



だれかと一緒に読みたい本です

はら

ヨシタケシンスケ作『このあとどうし
ちゃおう』ブロンズ社（2016年）

大切な人と会えなくて、寂しいなって思ったことはある？亡くなったおじいちゃんの部屋から見つかったノート。表紙に「このあとどうしちゃおう」って書いてあった。おじいちゃんは、自分が死んだ後の予定を立てていたんだ。

すごろくみたいにしておいて、「この世」から“ゆうれいセンター”や“うまれかわりセンター”、“てんごく”に進んだり、戻ったり、なんだかすごく楽しそう。死ぬことって考えたら少し怖いし、こんなこと思いつくなんてびっくりした。

でも、こんな楽しいこと考えていたら、誰かに話したくならなかったのかな？あれっ？ほんとにこわくなかったのかな？

私もまねをしてじぶんの「これからどうしちゃおう」を考えてみたら、気がついた



ことがあるんだ。明日のパンどうしよう？日曜日は何をしようかな？さあ、今日この後どうしちゃおう？

お話を読んだ後は、この本の表紙も裏表紙も見逃さないで楽しんでね。大人の人には、「にげてさがして」という出会いのための足の説明の絵本もおすすめしたいな。



特集 クリスマスにプレゼントしたい本

日本にクリスマスが伝わったのはいつのことだろうか？ チャッピーに聞いてみた。

彼？彼女が言うには、室町時代には宣教師によってクリスマスのミサが行われていたそうだ。500年近く前のことだ。

明治維新以降にはクリスマス文化が都市部を中心に広がっていく。大正時代にはクリスマスケーキが徐々に普及し、三越百貨店はクリスマス飾りを行い、子ども向けの贈り物文化も広がっていった。

高度経済成長期に家庭用のクリスマスツリーが大流行。お父さんがなぜキャバレーで乾杯をして、不二家でバタークリームのホールケーキを買って帰る姿が目につく。

バブル期にクリスマスは恋人たちのものになる。クリスマスディナー&ホテル予約だ。イルミネーションが輝いて、山下達郎が歌う「きっと君は来ない。ひとりきりのクリスマスイブ」

今、クリスマスは誰のものだろうか。サンタさんは世界中の子どもたちにプレゼントを届けることができるのだろうか。そもそも産まれた時からSNSに囲まれているこどもはサンタクロースを信じているのだろうか。

1897年9月バージニア=オハンロンちゃんという女の子が「サンタクロースって本当にいるんでしょうか？」と新聞社に手紙を出した。ニューヨーク・サン新聞は社説で答えた。

「サンタクロースをみた人は、いません。けれど、それはサンタクロースがい無いというしょうめいにはならないのです。

この世界でいちばんたしかなこと、それは、子どもの目にも、おとなの目に、みえないものなのですから。」

「サンタクロースがいなくて？とんでもない！　うれしいことに、サンタクロースはちゃんといます。それどころか、いつまでもしなないでしょう。

一千年のちまでも、百万年のちまでも、サンタクロースは、子どもたちの心を、今とかわらず、よろこばせてくれることでしょう。」

今年のクリスマスはこの本を手にとって読んでみてはどうだろう。



「サンタクロースっているんでしょうか？」

中村妙子・訳/東逸子・絵

発行者 今村廣/発行所 偕成社

1977年12月1刷



「宇宙へ(上)(下)」

作者 メアリ・ロビネット・コワル
酒井昭伸訳



タイトルから一目瞭然、これは、主人公のエルマ・ヨークが、『宇宙』をめざすお話です。しかし、物語がはじまるのは『1952年』。アポロの月面着陸は1969年。でも、いつまで待っても、お話にアームストロング船長は出てきません。なぜなら、エルマの生きるこの1952年に大西洋に巨大隕石が落ちるから。

これにより、ワシントンは壊滅。しかも大量の海水の蒸発により地球気候が変動し、遠くない未来に、海が沸騰するような灼熱の時代がやってくることが確実に。

なんとかして、人類を地球から脱出させなければ！

主人公のエルマは、アメリカ航空諮問委員会（NACA）の計算職員で、かつ、物理学博士の博士号を持ち、さらに、戦時中には飛行士として活躍していた、勝気な女性。

でも、若くして天才の名を冠したせいで大学で対面恐怖のトラウマを抱え、自殺しようとしたことがあり、今も大勢の前では嘔吐してしまうような弱さも持っています。

そんな彼女が、非合理としか言いようのない男社会の軋轢に歯噛みしながら、それでもひとりでもたくさんの人を救うため、宇宙飛行士をめざす奮闘は、常にドキドキハラハラ。そして、彼女とともに宇宙をめざす「レディ・アストロノート」たちとの、けしてお行儀の良くない本音の軽妙なやりとり、彼女たちの踏まれてもへこたれないしたたかだなやかなさまは、じっとして読んでるのが辛くなって、何か叫んで地団太踏みたくなるカッコよさ。

私は、これを読むまで「計算」というものにさしたる敬意を抱いていなかったのですが、この時代、IBMのコンピュータよりはる

かに宇宙開発に貢献した「計算者（コンピュータ）」と呼ばれる女性計算者たちの活躍は史実で、これぞ事実は小説より奇なりという驚愕！（「ドリーム」という映画にもなっているので、ご興味が湧いたらそちらも是非）

「もし、この時代にこんなことが起こったらどうなるだろう？」

作者が提示する、そんなSFから、まったく異なる歴史が展開してゆく。こういうお話を、歴史改変SFと呼びます。

これは「何かが今と違う世界」から今を振り返らせるものではないかと思うんですが、では、なぜ、宇宙開発初期のこの時代を作者は物語の舞台に選んだんだろうという疑問が当然浮かびますよね？

でも、この問いも、読むほどに「ああ。こういう事か」とびりびり感じていただけるはず。いやあ、ほんと、この本、ヒューゴ賞（SFファンが選ぶ賞）、ネビュラ賞（SF作家が選ぶ賞）、ローカス賞（ローカス誌の読者賞）総賞めというのも納得。あらゆる意味で面白いのです。

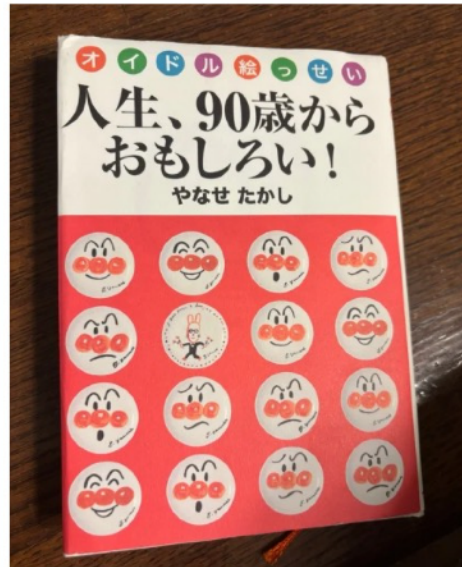
宇宙に出る事は、本当に……ほんっっとうに、容易ではない。でも、そこへ向けて飛び立とうとする気持ち、眼差しや力を、人が失うなんてことは、あっちゃいけない。

年末年始、頭上の広大な蒼穹を必ず仰ぎたくなること、請け合い。サンタとの待ち合わせを忘れさせる読書の楽しみと何かをはじめたくなるような元気をくれる作品。是非、おススメしたい。騙されたと思って、どうか、一度、お手にとってみてくださいませ。

（大阪SF読書会 泉田理恵子）



特集 クリスマスにプレゼントしたい本



この本は、愛される秘密が、いっぱいです。

やなせさんの青春時代は戦争で、漫画家として活動し始めたのは50歳もなかば過ぎ。いくつになって「さあこれからがおもしろい」と話すやなせさんの世界を覗いてみましょう。

やなせさんは、人生の晩年が近づいてくると、おしまいの日の事を思案すると言いながら、深刻な話にせず、ピンコロ爺さん、ただの爺さんにはなりたくないダン爺ズムや老いドルなどの造語を作る。ユーモア溢れる造語に顔が緩みます。

不老少年、未熟、青二才のまま加齢したと自虐しながらも漫画だけでなく音楽づくりにも励んだ。生きる喜びを作詞した「手のひらを太陽に」老いても子どものような心で周り仲良く「老眼のおたまじゃくし」などの作品を生み出す。

「アンパンマンシリーズでは、アンパンマン善玉菌だけをメインキャラにせずに、バイキンマン悪玉菌がアンパンマン同様メインキャラをはっている。」生物が生きるためには、菌との戦いはあるが、菌が全滅すると生物は死滅する。善玉菌と悪玉菌のバランスが重要でダイナミズムが生まれる。

やなせさんは、いろいろな事をやるのが大切と話して、漫画家、作詞家、ミュージカル出演など生と死、善と悪など数々の作品を生み出している。多くの病気と戦い入退院を繰り返す事さえも生きる喜びとするやなせたかしさんの生き方にアンパンマンが、愛される秘密が隠されていると思えた。

くるみ割り人形とクリスマスツリー

まりもも

小さい頃、サンリオの人形劇の映画「くるみ割り人形」を観た。

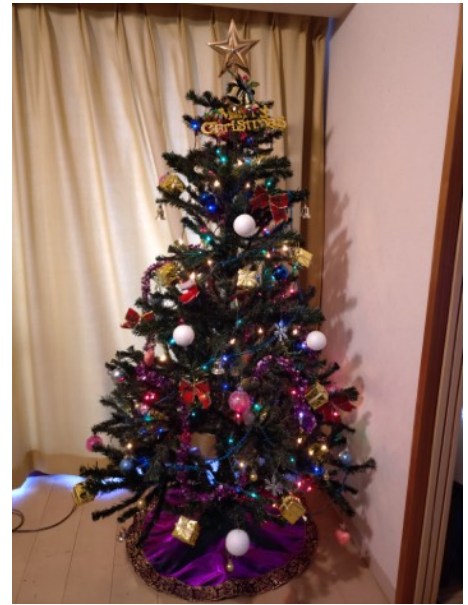
内容はほとんど覚えていなかったが、長い金髪をクルクルと巻いた主人公クララの愛らしさと、対決シーンで登場する妙にリアルなネズミの恐ろしさが脳裏に焼き付いて離れなかった。

そしてそれはバレエでも有名な物語だと後になってから知る。

主人公のクララが、クリスマスイブの夜におじさんからプレゼントされたくるみ割り人形に誘われ、お菓子の国に迷い込むという物語。そこでネズミの大将と対決をする。

劇中に流れるチャイコフスキーの曲も素敵で、舞台中央に大きくそびえ立つクリスマスツリーの華やかさに圧倒され、すぐさま夢の世界に引き込まれる。

そう、大きなクリスマスツリーは外せない。実家にあったツリーは50cmほどのものだった。救急箱に入っているような綿を枝の上に掛けたりして、今から思うとなんとも味気ないものだ。飾りだって今ほど豊富でもなかった。なので舞台で観たような大きなクリスマスツリーにずっと憧れていた。



流石に天井いっぱいとはいかないが、実家の3倍くらいあるツリーが今年も我が家のリビングの片隅に鎮座する。そのてっぺんのお星さま、大小のオーナメント、色とりどりのイルミネーションに心は踊る。あとはここにいっぱいのプレゼントの箱やお菓子の入ったブーツやくるみ割り人形があれば...

そうか、きっと私はクララになりたかったんだ。

くるみ割り人形に誘われて繰り広げられるあの夢物語の主人公に。それなら今年はクララになりきってコスプレでもしてみるか。

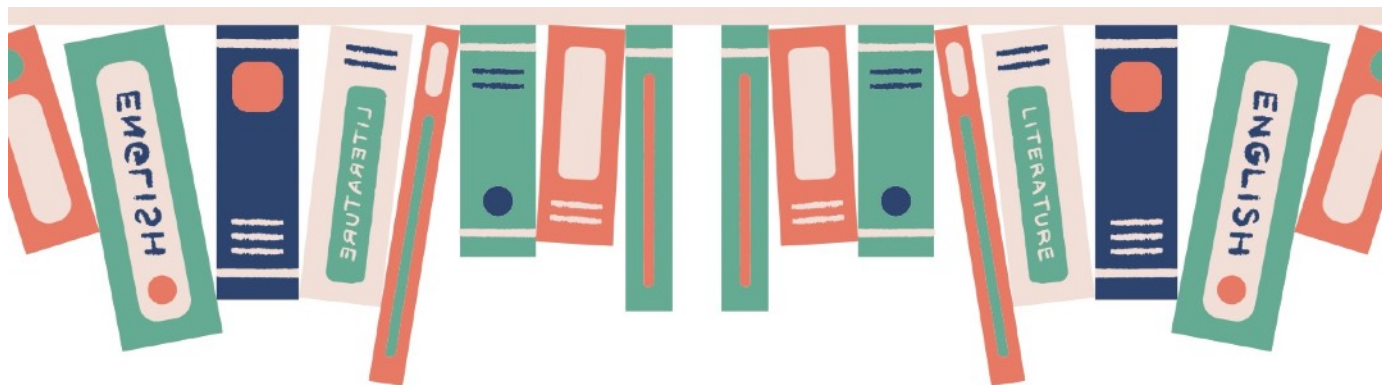
あ、但し、ネズミはご勘弁。

こんにちは。ミポリンです。
もうすぐクリスマス。クリスマスのお料理といえばチキン。インバウンドで海外の方が日本料理を絶賛されているのは嬉しい事ですね。外国の料理を日本風にアレンジするのが得意な日本人。今回はインドのタンドリーチキンを日本風にアレンジしてヨーグルトを味噌に変えたタンドリージャパンをご紹介します。

材料
鶏もも肉(一口大) 2枚
味噌 50g
マヨネーズ
カレー粉
粒マスタード
しょうゆ
酢
にんにく
しょうが
(味噌以外の材料は適当でOK)

作り方
ボールに調味料を入れて混ぜる。
そこに鶏肉を入れて調味料をからませる
フライパンに油を熱し油が熱くなった
鶏肉を入れ焼き色がついたらフタをして蒸し焼きにする。
鶏肉に火が通ったらOK。





書きたい気もちを大切に

作 文 カ フ ェ



ドリンク片手に文章創作

毎月 1 回 18:30~20:00



まちライブラリー@もりのみやキューズモール

本文地下鉄中央線/長堀鶴見緑地線 森ノ宮駅より徒歩約1分

JR 森ノ宮駅より徒歩約3分



HAMON vol.9 (2025年12月号)

作文カフェ HAMON編集委員会 (まちライブラリー@もりのみや
キューズモール内)